



東小学校応援団～地域とともにある学校づくり
学校を核とした地域づくり

第 1 号

2021年5月27日
発行者 東神楽小学校
学校運営協議会
地域連携担当：溝口



コミュニティ・スクールだより

コミュニティ・スクールとは

「学校運営協議会」を設置している学校で、保護者・地域・学校・教育委員会が一体となって、よりよい学校を創り上げていくものです。

コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

子どもにとって

- ・ 学びや体験活動が充実します。
- ・ 自己肯定感や他人を思いやる心が高まります。
- ・ 地域の担い手としての自覚が高まります。

保護者にとって

- ・ 学校や地域に対する理解が深まります。
- ・ 地域の中で子どもたちが育てられているという 安心感があります。
- ・ 保護者同士や地域の人々との 人間関係が構築できます。

地域の人々にとって

- ・ 経験を生かすことで 生きがいや自己有用感につながります。
- ・ 学校が社会的つながり、地域のよりどころになります。
- ・ 学校を中心とした 地域ネットワークが形成されます。

文部科学省コミュニティ・スクールパンフレットより抜粋

第 1 回学校運営協議会を開催！

5月7日(金)に、感染症対策を講じて「第1回学校運営協議会」が開催されました。内容は、経過報告・体制確認・今年度のCSの運営・学校経営方針・年間活動計画・グループワークです。今年度は、昨年度までと違って部を設置せずに各委員が各活動について考え、取り組んでいけるようにしています。より充実した活動となるようにグループワークを通して熟議を進めます。

今年度の各部会の活動について

地域連携担当

- ・ コミュニティ・スクールだよりの配付方法や紙面構成を工夫し、学校運営協議会の活動を町内にPRしていきます。
- ・ 学校の活動状況に合わせて、人材確保の取組を進めます。
- ・ ボランティア募集について、マチコミメールも活用します。

学校支援担当

- ・ 学校と連携し、今後実施できる活動に協力していきます。
(例) 5年総合「田んぼの学校」、全校朝会での講話企画 など

学校評価担当

- ・ 評価部会を開いて、学校評価内容について検討します。



教育委員会生涯学習コーディネーターの加藤様に、地域学校協働本部についてご説明いただきました。

令和3年度 学校運営協議会組織 (敬称略)

会長 北川 信一 統括副会長 花田 芳人 副会長 筒井 聡一 堤 泰樹 小足 幸久	地域連携担当 ○地域との事業の推進 ○広報活動	花田 芳人(中央地区公民館館長) 筒井 聡一(民生委員児童委員) 塚田 弘(GTA会長) 秋田 泰将(教頭)
	学校支援担当 ○保護者・地域による授業支援の推進	北川 信一(前同窓会会長) 堤 泰樹(元PTA会長) 南 春雄(GTA推進コーディネーター) 森山 鮎美(民生委員主任児童委員) 白川 悟(元忠栄小PTA会計) 溝口 佳斗(教諭)
	学校評価担当 ○学校の基本的な方針に基づき学校運営の点検や評価・助言	小足 幸久(元PTA会長) 中司 敦大(PTA顧問) 澤田こずえ(前PTA副会長) 松尾 和宏(同窓会会長) 大橋 昌樹(校長)

グループワークより

Aグループ 「育てたい東小っ子の姿」

○自分のよさを認めることができる子【学校の重点：自己肯定感の育成】

・家庭では、子どもの学校での様子を聞いてあげることが大切だと思う。その中のいいことは褒め、望ましくないことは考えさせ、善悪を判断できる力も育てていくことが大切だと思う。

○自分の考えを表現できる子【学校の重点：思考力・判断力・表現力の育成】

・東小を卒業した我が子は、先生の指導のお陰で、ものごとを柔軟に考えられるようになった。学校・教員の影響はとても大きい。各先生が資質を磨き、それを生かせる教育を進め、子どもからもいい評価があるとよい。

○仲間を思いやり、あいさつができる子【学校の重点：「礼儀」「親切・思いやり」の育成】

・東小っ子の伝統的なよさだと思う。これからも大事にして欲しい。

・今の教育は昔と違うと感じている。いじめも早めに対応しているのはよいことだと思う。併せて自分で解決しようとする力も育てて欲しい。

Bグループ 「東小の地域学校協働活動」

Bグループでは、地域連携協働活動について花田さん、筒井さん、塚田さん、南さん、森山さん、澤田さん、秋田で話をしました。内容については次のとおりです。

□子どもの成長につながることであれば、できることは協力していきたいと考えている。

□保護者や地域に教育活動の支援をお願いするときに専門家や特技の持ち主でないといえないイメージがあるので、誰でもできる内容を発信していくと協力者が増えると思う。

□児童ができる、分かることで自己肯定感が高まったり、世代を超えた支援の方とのつながりをもてたりすることができたので、寺子屋はやって良かったと感じる。

Cグループ 「学びを発信する稲作体験」

Cグループでは、毎年5年生が取り組んでいる稲作体験について、堤さん、中司さん、白川さん、溝口で話し合いました。今年度は、例年の体験を中心とした活動からレベルアップさせて、体験したことを発信する方法について話し合いました。

学校からは、今回の稲作体験のゴールを国語の「町自慢として、おいしいお米についてのポスターを作る」こと、町内の施設への掲示を行うことをお話しました。その他にも、「収穫したお米を全校の給食に使用する」、「バケツ稲にも取り組むのも面白い」などのご意見をいただきました。5月24日か25日に早速田植え体験も行います。